

平成27年の災害

広島市

目 次

第1章	気象概況（広島地方気象台提供）	1
1	平成27年（2015年）の気象の特徴	1
2	月別気象概況	1
3	気象注意報・警報等の発表状況	9
4	梅雨期の状況	10
5	台風の影響	12
第2章	地震（広島地方気象台提供）	14
1	月別・震度別地震回数	14
2	震度1以上を観測した地震の震央分布図	14
3	広島市各地の震度	15
第3章	風水害	17
第1	被害発生状況	17
1	災害別	17
2	行政区別	18
第2	災害応急組織を編成して対応した災害の概要	20
1	8月24日～8月25日 台風第15号	20
2	8月31日～9月1日 大雨	23
第4章	火災	26
1	火災発生状況	26
2	1日当たり及び1件当たりの火災概況	27
3	火災件数と死者数の推移（過去10年間）	27
第5章	ガス災害	28
1	ガス事故件数及び死傷者数	28
2	ガス事故発生場所別被害状況	28
3	消費先におけるガス事故発生原因別件数	29
第6章	危険物災害	30
【参考1】	救急活動	31
1	事故別出動件数・搬送人員	31
2	1日当たり出動件数・搬送人員	32
3	救急出動件数及び搬送人員の推移（過去10年間）	32
【参考2】	救助活動	33
	平成27年（2015年）災害のまとめ	34

第1章 気象概況（広島地方気象台提供）

1 平成27年（2015年）の気象の特徴

（1）概況

1月は、低気圧や冬型の気圧配置の影響を受けて雨や雪の日が多く、降水量はかなり多かった。2月は、冬型の気圧配置が続く日もあったが、高気圧と低気圧が交互に通過して天気は短い周期で変わった。

春の期間は、3月上旬や4月上旬から中旬にかけては低気圧や前線の影響で曇りや雨の日が多かったが、その他は高気圧に覆われて晴れの日が多く、平均気温はかなり高かった。

夏の期間は、6月から7月下旬のはじめ頃にかけては梅雨前線や湿った空気の影響を受けやすく曇りや雨の日が多かった。その後、8月上旬にかけては太平洋高気圧に覆われて晴れの日が多く、猛暑日が続くところもあった。8月中旬以降は前線や台風の影響で曇りや雨の日が多くなり、大雨で土砂災害の発生したところがあった。この期間は梅雨前線の影響は小さかったが、太平洋高気圧の西日本への張り出しが弱かったため湿った空気の影響を受けやすくなり、日照時間は少なく、平均気温も低かった。

秋の期間は、9月後半から10月にかけては、高気圧に覆われて晴れの日が多かったが、9月前半と11月は低気圧や前線及び寒気の影響を受けやすく、曇りや雨の日が多かった。また、広島で11月27日に初雪と初冠雪を観測した。

12月は、気圧の谷や寒気の影響を受けて曇りや雨の日が多く、降水量はかなり多かった。また、寒気の南下が弱かったため、平均気温はかなり高かった。広島で29日に初霜と初氷を観測した。

（2）平均気温

年平均気温は、高野、三次、庄原、大朝、加計、府中、東広島、廿日市津田、広島、大竹で平年より高く、その他は平年並となった。

（3）降水量

年降水量は、庄原、東城、八幡、油木、世羅、府中、東広島、福山、広島、竹原、生口島、呉、倉橋で平年より多く、その他は平年並となった。

（4）日照時間

年間日照時間は、生口島で平年より多く、三次、大朝、油木、加計、福山、廿日市津田、広島、竹原、大竹、呉で平年より少なく、その他は平年並となった。

2 月別気象概況

1月：上旬は冬型の気圧配置となることが多く、強い寒気の影響で北部を中心に大雪となった。中旬以降は低気圧や気圧の谷の影響で曇りや雨の日が多くなり、月降水量はかなり多かった。

上旬 はじめと中頃は冬型の気圧配置となることが多く、雪や雨の日が多かった。特に、1日から2日にかけては、上空に強い寒気が流れ込み、2日は高野74センチ、八幡106センチ、広島3センチの最深積雪を観測した。

中旬 気圧の谷の影響で、曇りや雨の日が多かった。降水量は平年より多くかなり多いところがあった。15日には、王泊、呉市蒲刈、加計など県内13地点で1月の日降水量1位を観測した。

下旬 低気圧や寒気の影響で、曇りや雨の日が多かった。降水量は平年より多い又はかなり多く、平均気温は平年より高い又はかなり高かった。

月平均気温は、生口島で平年よりかなり高く、高野、三次、庄原、大朝、加計、府中、東広島、福山、廿日市津田、広島、竹原、大竹、呉で平年より高く、その他は平年並となった。

月降水量は、高野、三次、庄原、東城、八幡、大朝、油木、王泊、甲田、上下、世羅、府中、志和、東広島、福山、廿日市津田、広島、竹原、生口島で平年よりかなり多く、その他は平年より多かった。

月間日照時間は、生口島で平年より多く、大朝、油木、世羅、府中、福山、大竹、呉で平年より少なく、その他は平年並となった。

2月：上旬は冬型の気圧配置が続き、中旬以降は冬型の気圧配置が強まる日もあったが、高気圧と低気圧が交互に通過して天気は短い周期で変化した。月降水量はかなり少なかった。

上旬 冬型の気圧配置となることが多く、曇りの日が多かった。日照時間は、平年並みか平年より少なく、かなり少ないところがあった。平均気温は、平年並みか平年より低かった。

中旬 低気圧と高気圧が交互に通過して天気は短い周期で変化した。半ばには冬型の気圧配置が強まって北部を中心に雪が降った。18日から19日は、強い冬型の気圧配置となり、この期間に八幡で42センチ、高野で24センチの降雪（2日間の積雪差の日合計）を観測した。

下旬 前線や気圧の谷の影響で曇りの日が多かった。22日には日本海を低気圧が発達しながら東北東に進み、中国地方で春一番を観測した。また、23日には黄砂を観測した。

月平均気温は、大朝、生口島で平年より高く、その他は平年並となった。

月降水量は、八幡、王泊で平年より多く、庄原、世羅、府中、志和、東広島、福山、広島、生口島、呉、倉橋で平年よりかなり少なく、三次、東城、油木、甲田、上下、三入、廿日市津田、竹原、大竹で平年より少なく、その他は平年並となった。

月間日照時間は、高野、大朝で平年よりかなり少なく、三次、庄原、油木、加計、三入、世羅、府中、廿日市津田で平年より少なく、その他は平年並となった。

3月：上旬は気圧の谷の影響を受けて曇りや雨の日が多く、寒気の影響で雪の日もあった。中旬以降は高気圧に覆われて晴れの日が多かった。

上旬 気圧の谷の影響で曇りや雨の日が多かった。また、10日は冬型の気圧配置となり、高野で41センチの降雪（積雪差の合計）を観測した。

中旬 はじめから中頃は、高気圧に覆われて晴れの日が多かった。17日は南からの暖かく湿った空気が流れ込み、最高気温は平年よりかなり高く、4月下旬から5月中旬並みとなったところもあった。終わり頃には、気圧の谷や前線の影響で雨となった。

下旬 冬型の気圧配置や高気圧に覆われて晴れの日が多かった。中頃は各地で最低気温は平年よりかなり低く、2月上旬から中旬並みとなり、最も寒い時期を下回るところもあった。終わり頃は、最高気温が平年よりかなり高く、5月中旬並みとなったところもあった。

月平均気温は、三次、庄原、大朝、加計、世羅、府中、東広島、廿日市津田、広島、生口島、大竹で平年より高く、その他は平年並となった。

月降水量は、庄原、福山、竹原、生口島で平年より多く、加計で平年よりかなり少なく、八幡、大朝、王泊、三入、廿日市津田で平年より少なく、その他は平年並となった。

月間日照時間は、高野、三次、庄原、加計、三入、広島、呉で平年よりかなり多く、その他は平年より多かった。

4月：上旬から中旬にかけては低気圧や前線の影響を受けて、曇りや雨の日が多かった。下旬は高気圧に覆われて晴れの日が続いた。

上旬 低気圧や前線の影響で曇りや雨の日が多かった。3日と5日及び10日はまとまった雨となり、3日は廿日市津田で50.5ミリ、三入で49.5ミリ、広島で46.5ミリの日降水量を観測した。

中旬 気圧の谷や低気圧が短い周期で通過したため曇りや雨の日が多かった。20日は日本海を低気圧が発達しながら通過し、三入で42.5ミリ、廿日市津田で42.0ミリ、広島で38.0ミリ、佐伯湯来で37.5ミリの日降水量を観測した。

下旬 中頃までは高気圧に覆われて晴れの日が続き、終わり頃は気圧の谷や湿った空気の影響で曇りや雨となった。気温は平年より高く、27日は県内14地点で夏日（日最高気温が25℃以上）となった。

月平均気温は、庄原、大朝、東広島、廿日市津田、大竹、呉で平年よりかなり高く、その他は平年より高かった。

月降水量は、高野、八幡で平年よりかなり多く、庄原、東城、大朝、王泊、加計、甲田、三入、世羅、府中、志和、東広島、福山、廿日市津田、広島、生口島、呉で平年より多く、その他は平年並となった。

月間日照時間は、油木、世羅、府中、東広島、福山、広島、竹原、大竹、呉で平年よりかなり少なく、その他は平年より少なかった。

5月：上旬から中旬にかけては高気圧と低気圧の影響を交互に受けて、天気は数日の周期で変化し、12日は前線と台風第6号の影響で大雨となったところがあった。下旬は高気圧に覆われて晴れの日が多かった。月平均気温はかなり高かった。

上旬 天気は数日の周期で変化した。3日から4日にかけては、対馬海峡から日本海に進む前線を伴った低気圧の影響で雨となり、3日は内黒山で27.5ミリ、廿日市津田で23.0ミリの日降水量を観測した。

中旬 前線や気圧の谷の影響で曇りや雨の日が多かった。特に12日は寒冷前線と台風第6号からの湿った空気の影響で、内黒山で50.0ミリ、大竹で47.0ミリ、加計と都志見で46.0ミリの日降水量を観測した。19日は府中、加計、三入で今年初めての真夏日（日最高気温が30℃以上）となった。

下旬 高気圧に覆われて晴れの日が多く、降水量は平年よりかなり少なかった。25日は上空の寒気と日射の影響で大気の状態が不安定となり、上下では21.0ミリの日降水量を観測した。

月平均気温は、三次、庄原、大朝、加計、府中、東広島、福山、廿日市津田、広島、生口島、大竹、呉で平年よりかなり高く、その他は平年より高かった。

月降水量は、高野、庄原、志和で平年よりかなり少なく、三次、東城、八幡、大朝、油木、王泊、加計、甲田、上下、三入、世羅、府中、東広島、福山、廿日市津田、広島、竹原、大竹、呉、倉橋で平年より少なく、生口島は平年並となった。

月間日照時間は、高野、庄原、世羅、東広島、生口島で平年よりかなり多く、その他は平年より多かった。

6月：上旬は高気圧と低気圧及び梅雨前線の影響を交互に受けた。中旬から下旬にかけては、西日本に停滞する梅雨前線や低気圧の影響で曇りや雨の日が多く、大雨となったところもあった。

上旬 中頃にかけて天気は短い周期で変わり、終わり頃は梅雨前線や気圧の谷の影響で曇りや雨となった。2日から3日にかけては前線や湿った空気の影響で雨となり、総降水量は大竹で60.0ミリ、廿日市津田で52.0ミリ、都志見で51.0ミリアを観測した。

なお、中国地方は2日（平年より5日早く、昨年と同じ）ごろ梅雨入りした。

中旬 梅雨前線や気圧の谷の影響で曇りや雨の日が多かった。20日は気圧の谷や上空の寒気の影響で大気の状態が不安定となり、北部を中心に激しい雨が降り、甲田で36.0ミリ、庄原で31.5ミリの日最大1時間降水量を観測した。

下旬 はじめと終わり頃は高気圧に覆われて晴れる日もあったが、中頃を中心に梅雨前線や気圧の谷の影響で曇りや雨となった。26日は梅雨前線上の低気圧が日本海を通過し、大竹で91.5ミリ、廿日市津田で88.5ミリ、広島で82.0ミリの日降水量を観測した。

月平均気温は、三入で平年よりかなり低く、その他は平年より低かった。

月降水量は、内黒山、府中で平年より多く、その他は平年並となった。

月間日照時間は、高野、三次、大朝、油木、加計、福山、廿日市津田、竹原、大竹、呉で平年より少なく、その他は平年並となった。

7月：梅雨前線や台風の影響で曇りや雨の日が多く、大雨となったところもあった。下旬は太平洋高気圧に覆われて晴れの日が多くなり、中国地方は24日ごろ梅雨明けした。

上旬 梅雨前線や湿った空気の影響で曇りや雨の日が多かった。10日は湿った空気と日射の影響で大気の状態が不安定となり、北部を中心に雨が降り、美土里では日最大1時間降水量68.5ミリの非常に激しい雨を観測した。

中旬 台風や湿った空気の影響で曇りや雨の日が多かった。16日から17日にかけては、台風第11号の影響で雨が降り、17日は道後山で73.0ミリ、八幡で61.0ミリの日降水量を観測した。

なお、中国地方は24日（平年より3日遅く、昨年より4日遅い）ごろ梅雨明けした。

下旬 中頃までは南からの湿った空気の影響で曇りや雨の日が多く、終わり頃は太平洋高気圧に覆われて晴れの日が多かった。

月平均気温は、三入、世羅、広島、竹原で平年より低く、その他は平年並となった。

月降水量は、高野、三次、東城、八幡、大朝、油木、王泊、加計、甲田、内黒山、三入、世羅、志和、東広島、福山、廿日市津田、広島、竹原、大竹、呉で平年より少なく、その他は平年並となった。

月間日照時間は、高野、三次、大朝、油木、加計、東広島、福山、廿日市津田、広島、大竹、呉で平年より少なく、その他は平年並となった。

8月：上旬は太平洋高気圧に覆われて晴れの日が多く、気温も高く猛暑日の続いたところがあった。中旬以降は前線や台風の影響で曇りや雨の日が多く、大雨となったところもあった。

上旬 太平洋高気圧に覆われて晴れる日が多かったが、上空の寒気や強い日射の影響で大気の状態が不安定となり、山沿いを中心に雷雨となった。

中旬 前線や低気圧の影響で曇りや雨の日が多かった。17日は西日本に停滞する前線上の低気圧が瀬戸内海を東進し、暖かく湿った空気が流れ込んだため、雷を伴って激しい雨が降り、上下で49.5ミリ、世羅で47.5ミリ、府中で41.5ミリの日最大1時間降水量を観測した。

下旬 台風や前線の影響で曇りや雨の日が多かった。25日は熊本県に上陸して日本海まで北上した台風第15号の影響で、西部を中心に激しい雨が降り、廿日市津田で45.0ミリ、内黒山で44.0ミリの日最大1時間降水量を観測した。

月平均気温は、三入で平年よりかなり低く、高野、三次、庄原、大朝、油木、加計、世羅、東広島、福山、広島、竹原、生口島、大竹、呉で平年より低く、その他は平年並となった。

月降水量は、八幡、内黒山、世羅、府中、東広島、竹原、呉、倉橋で平年よりかなり多く、三次、庄原、東城、大朝、油木、王泊、加計、甲田、上下、三入、志和、福山、廿日市津田、広島、生口島、大竹で平年より多く、高野は平年並となった。

月間日照時間は、高野で平年より多く、福山、竹原で平年より少なく、その他は平年並となった。

9月：上旬から中旬の中頃にかけては前線や湿った空気の影響で曇りや雨の日が多く、大雨となったところもあった。中旬の終わり頃から下旬にかけては高気圧に覆われて晴れる日が多かった。

上旬 西日本に停滞する前線や気圧の谷の影響で曇りや雨の日が多く、日照時間は平年よりかなり少なかった。9日は東海地方を北上した台風第18号の影響で、日本海からの湿った空気が西部を中心に流れ込み、八幡で108.5ミリの日降水量を観測した。

中旬 中頃にかけて天気は短い周期で変わり、終わり頃は高気圧に覆われて晴れの日が続いた。

下旬 はじめと終わり頃は高気圧に覆われて晴れの日が多かったが、中頃は低気圧や気圧の谷の影響で曇りや雨となった。

月平均気温は、油木、三入、世羅、広島、竹原で平年よりかなり低く、その他は平年より低かった。

月降水量は、生口島、呉で平年より多く、その他は平年並となった。

月間日照時間は、庄原、油木、福山、広島、竹原、生口島で平年より少なく、その他は平年並となった。

10月：低気圧や前線の影響で曇りや雨の日もあったが、高気圧に覆われて晴れの日が多く、月間日照時間はかなり多かった。

上旬 気圧の谷や低気圧の影響で曇りや雨の日もあったが、高気圧に覆われて晴れの日が多かった。1日は、日本海を急速に発達しながら北東進する低気圧の影響で雨となり、廿日市津田で75.5ミリ、道後山で74.0ミリ、大竹で73.5ミリ、内黒山で73.0ミリの日降水量を観測した。

中旬 はじめ頃は前線や寒気の影響で曇りの日もあったが、その後は高気圧に覆われて晴れの日が続いた。

下旬 高気圧に覆われて晴れの日が多かった。27日は寒冷前線の通過で午後を中心に雨となり、志和で40.0ミリ、広島で37.0ミリの日降水量を観測した。

月平均気温は、世羅で平年よりかなり低く、高野、三次、庄原、大朝、油木、加計、三入、東広島、福山、廿日市津田、竹原で平年より低く、その他は平年並となった。

月降水量は、志和、広島、呉で平年より多く、三次、八幡、大朝、油木、王泊、加計、甲田、上下、世羅、府中、福山、竹原、生口島で平年より少なく、その他は平年並となった。

月間日照時間は、全ての観測点で平年よりかなり多かった。

11月：気圧の谷や低気圧及び前線の影響で曇りや雨の日が多かった。下旬には寒気の影響を受ける日もあったが、月平均気温はかなり高く、月降水量はかなり多かった。

上旬 前半は高気圧に覆われて晴れの日が多かったが、後半は低気圧や気圧の谷の影響で曇りや雨の日が多かった。8日は君田で日降水量53.0ミリを観測した。

中旬 高気圧に覆われて晴れの日もあったが、低気圧や前線の影響で曇りや雨の日が多く、降水量は平年よりかなり多かった。17日は八幡で日降水量62.5ミリを観測した。

下旬 気圧の谷や寒気の影響で曇りの日が多かった。26日から27日にかけては冬型の気圧配置となり、中国山地を中心に積雪となった。27日は広島で初雪（平年より14日早い、昨年より8日早い）を観測した。

月平均気温は、全ての観測点で平年よりかなり高かった。

月降水量は、高野、三次、庄原、東城、八幡、大朝、油木、王泊、加計、甲田、上下、三入、世羅、府中、志和、東広島、廿日市津田、広島、生口島、大竹、呉、倉橋で平年よりかなり多く、その他は平年より多かった。

月間日照時間は、高野、三次、庄原、大朝、油木、加計、三入、世羅、府中、東広島、福山、廿日市津田、広島、竹原、大竹、呉で平年よりかなり少なく、生口島で平年より少なかった。

12月：気圧の谷や冬型の気圧配置の影響で曇りや雨の日が多く、月降水量はかなり多かった。雪の日もあったが、寒気の南下が弱かったため、月平均気温はかなり高かった。

上旬 前半は気圧の谷や冬型の気圧配置の影響で曇りや雨の日が多く、後半は高気圧に覆われて晴れの日が多かった。10日は前線を伴った低気圧の影響で雨となり、廿日市津田で76.5ミリ、大竹で70.0ミリの日降水量を観測した。

中旬 前半は低気圧や寒気の影響で曇りや雨の日が多かった。後半は高気圧に覆われて南部を中心に晴れの日が多かったが、16日から18日にかけては冬型の気圧配置となり、17日は八幡で28センチ、高野で25センチ、大朝で17センチの降雪（積雪差の日合計）を観測した。

下旬 前半は気圧の谷や低気圧の影響で雨の日が多く、後半は寒気の影響で雨の日もあったが、高気圧に覆われて晴れの日が多かった。29日は広島で初霜（平年より15日遅い、昨年より23日遅い）と初氷（平年より16日遅い、昨年より23日遅い）を観測した。

月平均気温は、高野、三次、庄原、大朝、油木、加計、世羅、府中、東広島、福山、廿日市津田、広島、竹原、生口島、大竹、呉で平年よりかなり高く、三入で平年より高かった。

月降水量は、東城、油木、加計、三入、世羅、府中、志和、東広島、福山、廿日市津田、広島、竹原、生口島、大竹、呉、倉橋で平年よりかなり多く、その他は平年より多かった。

月間日照時間は、生口島で平年よりかなり多く、高野、庄原、大朝、呉で平年より少なく、その他は平年並となった。

[月別気象状況]

(広島地方気象台)

区 分	降水量	相対湿度		風 向 ・ 風 速						
	月合計	平均	最小	月平均	日最大	風向	起日	最大瞬間	風向	起日
	(mm)	(%)	(%)	(m/s)	(m/s)					
平成27年 1月	95.5	69	27	3.1	13.3	W	11	18.6	WNW	1
2月	24.0	63	21	3.1	12.4	WSW	12	20.2	W	12
3月	106.5	57	11	3.4	10.9	NNW	23	15.6	NW	23
4月	198.0	63	11	3.3	10.5	NNW	17	16.7	S	3
5月	101.0	60	14	2.9	11.1	N	20	15.6	N	20
6月	237.5	69	20	2.8	8.4	N	3	13.0	SSW	13
7月	110.0	72	35	3.0	14.9	N	17	22.9	N	17
8月	215.5	68	32	2.9	16.0	S	25	27.7	S	25
9月	159.5	66	18	3.4	9.7	N	8	13.7	NNE	7
10月	94.0	58	22	3.7	11.1	SSW	1	21.4	S	1
11月	192.5	69	22	3.3	10.0	NNE	24	15.2	NNE	24
12月	107.0	65	23	3.4	15.5	NNW	11	23.6	NNW	11
年平均等	1,641.0	(65)	11	(3.2)	16.0	S	8月25日	27.7	S	8月25日

() : 平均値

□ : 最大値 (日付は、最大値を記録した日を表す)

○ : 最小値

[年別気象状況]

(広島地方気象台)

区 分	降水量	相対湿度		風 向 ・ 風 速						
	月合計	平均	最小	月平均	日最大	風向	起日	最大瞬間	風向	起日
	(mm)	(%)	(%)	(m/s)	(m/s)					
平成23年	1,502.0	65	12	3.5	16.8	N	9月21日	28.4	ENE	7月19日
平成24年	1,478.0	67	9	3.4	17.1	SW	4月3日	27.7	SW	4月3日
平成25年	1,820.5	67	14	3.4	17.2	N	9月16日	26.4	N	10月16日
平成26年	1,573.0	68	8	3.4	17.6	NNE	10月13日	27.4	N	10月13日
平成27年	1,641.0	65	11	3.2	16.0	S	8月25日	27.7	S	8月25日

値) : 準正常値、対象となる資料の一部がかけられているが、許容する資料数を満たす値

値] : 資料不足値、対象となる資料が許容する資料数を満たさない値

値* : 極値が2つ以上あり、新しい方の起日を表す

【降水量 観測所別】

広島地方気象台における平成27年の年間降水量は、1,641.0ミリ（平年値の107%）で平年より多くなり、月別に見ると、1月・11月・12月は平年よりかなり多く、4月・8月・10月は平年より多く、3月・6月・9月は平年並、5月・7月は平年より少なく、2月は平年よりかなり少なかった。

（単位：ミリ）

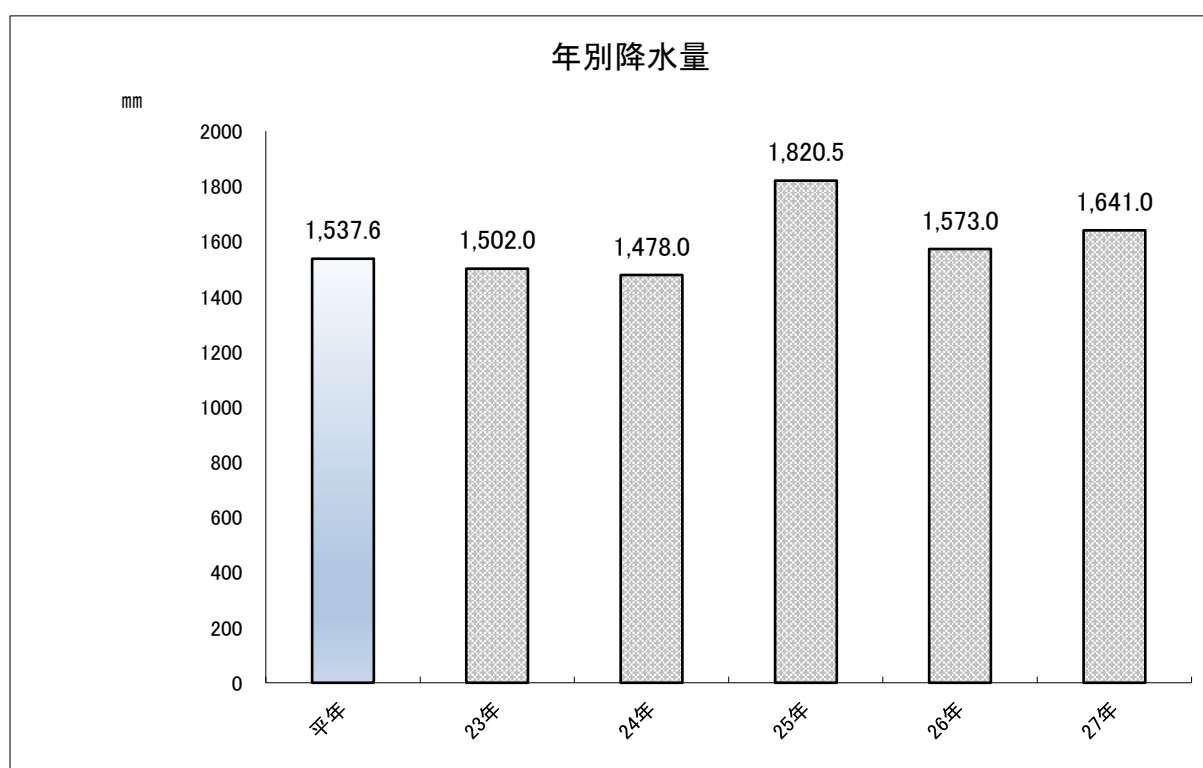
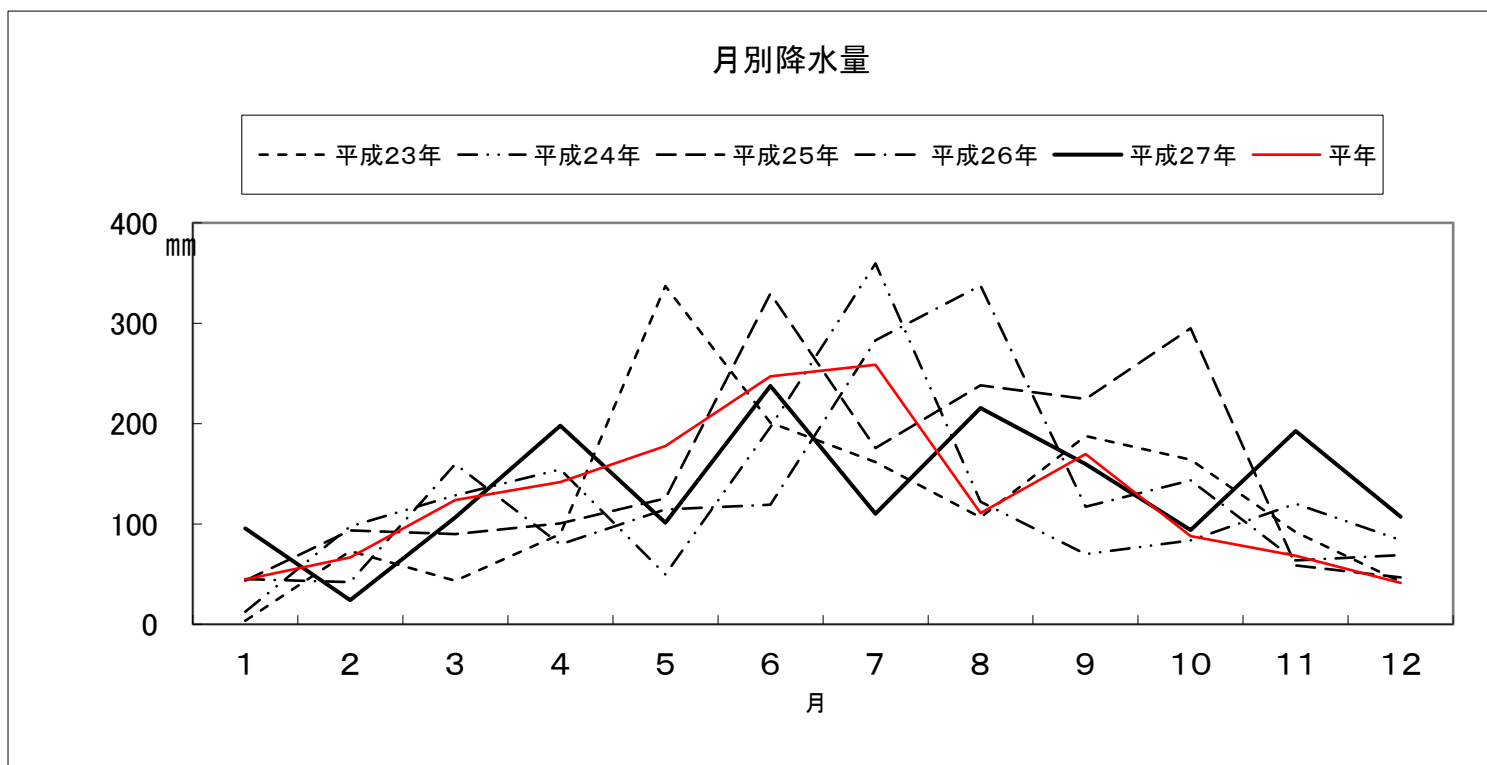
月別 観測所名	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	年間
中消防署	89	23	98	182	94	198	88	186	134	84	177	84	1,437
温品消防出張所	92	22	99	171	86	193	105	192	135	91	181	85	1,452
似島消防出張所	95	24	109	162	92	211	111	182	155	79	149	81	1,450
西消防署	89	26	102	182	93	213	91	183	135	83	185	90	1,472
祇園消防出張所	96	30	102	202	96	198	111	179	139	90	187	93	1,523
上安消防出張所	124	42	101	207	108	204	134	187	149	70	159	99	1,584
安佐南署消防署	92	29	94	194	93	183	115	165	139	85	173	95	1,457
沼田消防出張所	102	44	99	203	111	214	127	187	167	77	157	101	1,589
戸山分団阿戸車庫	115	55	90	176	109	207	142	216	180	56	164	123	1,633
口田分団矢口車庫	52	6	84	174	89	179	101	179	141	91	181	73	1,350
高陽消防出張所	94	33	101	185	92	169	93	171	135	87	178	93	1,431
狩小川分団湯坂車庫	103	37	99	167	86	178	112	231	154	88	181	83	1,519
三入分団桐原車庫	106	43	99	187	101	188	117	209	144	74	172	100	1,540
三田分団畑車庫	66	31	74	144	79	158	112	152	118	85	134	55	1,208
志屋分団梶名車庫	114	39	102	159	96	175	136	166	158	58	163	88	1,454
大林分団大杉車庫	106	45	93	188	105	190	128	219	135	62	166	92	1,529
亀山分団大畑車庫	118	57	109	200	117	188	155	198	154	61	165	109	1,631
亀山分団亀山車庫	107	41	93	182	102	188	145	181	140	63	160	97	1,499
亀山分団亀山西車庫	96	41	99	188	105	192	150	183	143	60	159	97	1,513
久地分団久地車庫	115	60	95	177	121	199	133	197	187	51	115	61	1,511
小河内分団堂原河内車庫	128	66	95	191	70	212	159	267	195	58	193	142	1,776
安佐消防出張所	127	65	108	200	128	203	150	204	177	55	169	128	1,714
鈴張分団鈴張西車庫	124	62	97	198	114	192	159	205	170	54	176	118	1,669
安芸区役所	79	19	93	141	87	183	134	196	157	66	140	70	1,365
安芸区中野出張所	99	25	105	158	92	199	161	232	166	75	158	80	1,550
瀬野分団中原車庫	80	22	84	137	69	183	143	200	187	64	165	77	1,411
安芸区阿戸出張所	98	27	114	168	58	216	122	249	188	67	154	82	1,543
安芸区矢野出張所	80	22	103	140	82	188	134	184	185	61	131	75	1,385
佐伯消防署	102	31	100	199	114	233	107	201	168	87	191	102	1,635
水内分団堂原車庫	147	72	85	193	104	212	104	274	166	58	162	132	1,709
上水内分団多田車庫	137	90	83	216	115	242	170	274	169	74	179	140	1,889
広島地方気象台 (上八丁堀)	95.5	24.0	106.5	198.0	101.0	237.5	110.0	215.5	159.5	94.0	192.5	107.0	1,641.0
広島地方気象台 平年値	44.6	66.6	123.9	141.7	177.6	247.0	258.6	110.8	169.5	87.9	68.2	41.2	1,537.6

注1：広島地方気象台（中区上八丁堀）の平年値は、統計期間1981年～2010年の値である。
 注2：小河内分団堂原河内車庫は建替えのため、6月から12月は小河内（国砂防）雨量計の観測値を用いた。

月別, 年別降水量

(広島地方気象台)

月	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	年
平成23年	3.5	73.0	43.5	90.0	337.0	201.0	161.5	106.5	187.5	164.0	92.0	42.5	1,502.0
平成24年	12.5	97.5	128.5	154.5	49.5	196.5	359.5	122.0	70.0	83.5	120.0	84.0	1,478.0
平成25年	43.5	93.5	90.0	100.5	125.5	329.5	175.5	238.0	224.5	295.0	58.5	46.5	1,820.5
平成26年	45.0	42.0	159.5	79.5	114.5	119.0	283.0	337.5	117.0	143.5	63.5	69.0	1,573.0
平成27年	95.5	24.0	106.5	198.0	101.0	237.5	110.0	215.5	159.5	94.0	192.5	107.0	1,641.0
平年	44.6	66.6	123.9	141.7	177.6	247.0	258.6	110.8	169.5	87.9	68.2	41.2	1,537.6



平年	1,537.6
23年	1,502.0
24年	1,478.0
25年	1,820.5
26年	1,573.0
27年	1,641.0

3 気象注意報・警報等の発表状況

平成27年（2015年）中に広島地方気象台から広島市に対して発表された気象に関する注意報及び警報等並びに広島市から発表された火災警報は下表のとおりである。

種 類	月												合 計	
	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12		
警 報	暴風雪警報	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	0
	大雨警報	—	—	—	—	—	—	1	2	1	—	—	—	4
	洪水警報	—	—	—	—	—	—	1	2	—	—	—	—	3
	暴風警報	—	—	—	—	—	—	1	1	—	—	—	—	2
	大雪警報	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	0
	波浪警報	—	—	—	—	—	—	1	1	—	—	—	—	2
	高潮警報	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	0
	合 計	0	0	0	0	0	0	4	6	1	0	0	0	11
注 意 報	大雨注意報	—	—	—	1	1	4	6	11	2	2	2	—	29
	大雪注意報	2	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	2
	風雪注意報	1	1	1	—	—	—	—	—	—	—	—	—	3
	雷注意報	2	2	2	6	5	8	11	18	5	2	3	5	69
	強風注意報	5	2	3	2	—	—	3	2	1	1	2	2	23
	波浪注意報	5	2	2	2	—	—	3	2	1	1	2	2	22
	洪水注意報	—	—	—	1	1	4	5	11	1	2	1	—	26
	高潮注意報	—	—	—	—	1	—	3	8	3	5	2	—	22
	濃霧注意報	—	1	4	3	3	5	1	—	—	—	1	2	20
	乾燥注意報	4	5	8	6	9	4	—	—	4	4	4	7	55
	なだれ注意報	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	0
	低温注意報	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	0
	霜注意報	—	—	6	1	—	—	—	—	—	—	—	—	7
	着雪注意報	2	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	2
	着氷注意報	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	0
	融雪注意報	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	0
合 計	21	13	26	22	20	25	32	52	17	17	17	18	280	
広 島 県 気 象 情 報	一般気象情報	9	1	—	10	3	5	5	5	7	—	5	—	50
	台風情報	—	—	—	—	—	—	11	8	—	—	—	—	19
	天候情報	—	—	—	—	—	—	1	—	1	—	—	—	2
	潮位情報	—	—	—	—	—	—	1	1	1	1	—	—	4
	黄砂情報	—	—	1	—	—	—	—	—	—	—	—	—	1
	竜巻注意情報	—	—	—	—	—	—	—	2	—	—	—	—	2
	高温注意情報	—	—	—	—	—	—	6	11	—	—	—	—	17
	スモッグ気象情報	—	—	—	—	8	2	2	11	—	—	—	—	23
	記録的短時間大雨情報	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	0
	合 計	9	1	1	10	11	7	26	38	9	1	5	0	118
火 災 警 報	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	0	

注1：注意報は発表してから解除まで、または警報に切り替えるまでを1回としている。
また同様に、警報は発表してから解除、または注意報に切り替えるまでを1回として計上した。

注2：一般気象情報とは、大雨・大雪・強風（暴風）・突風・高波・雷・降ひょうなどの気象情報である。
天候情報とは、高温・低温・日照不足・少雨などの気象情報である。

4 梅雨期の状況

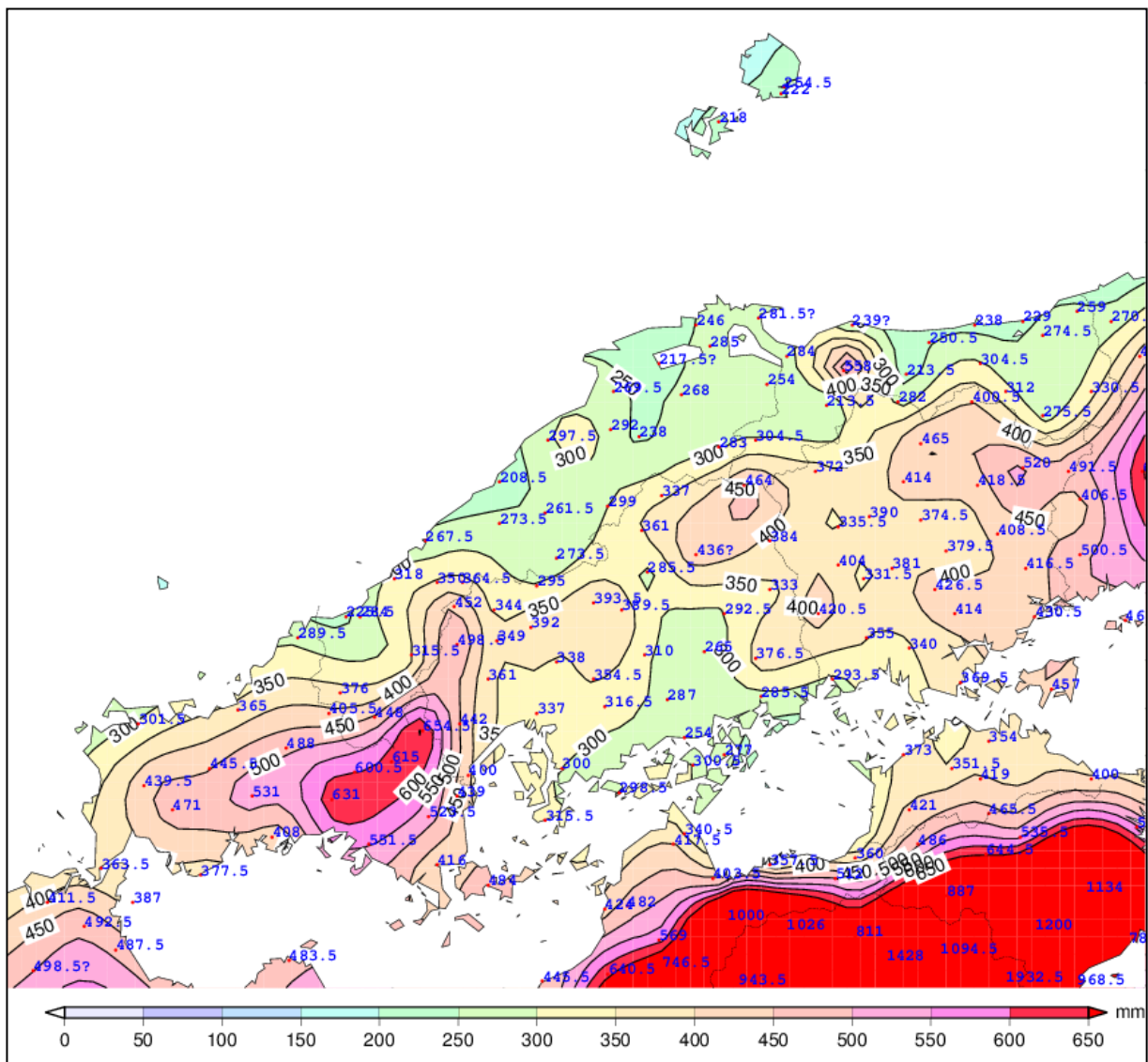
6月は西日本の南海上から南岸に停滞する梅雨前線や低気圧の影響を受けて、中旬を中心に曇りや雨の日が多かった。7月の上半は梅雨前線が西日本に停滞することが多く、この影響を受けた。中旬は日本海まで北上した梅雨前線や台風等の湿った空気の影響を受ける日が多かった。下旬は太平洋高気圧の勢力が強まり、日本海に停滞する梅雨前線は次第に不明瞭となった。

(1) 梅雨入り (6月2日ごろ)

中国地方は、梅雨前線が西日本の南岸をゆっくり北上した6月2日ごろ(平年6月7日ごろ、昨年6月2日ごろ)梅雨入りとなった。

(2) 梅雨明け (7月24日ごろ)

中国地方は、太平洋高気圧が強まった7月24日ごろ(平年7月21日ごろ、昨年7月20日ごろ)梅雨明けとなった。



平成 27 (2015) 年の梅雨期間*の降水量分布 (単位 : mm)

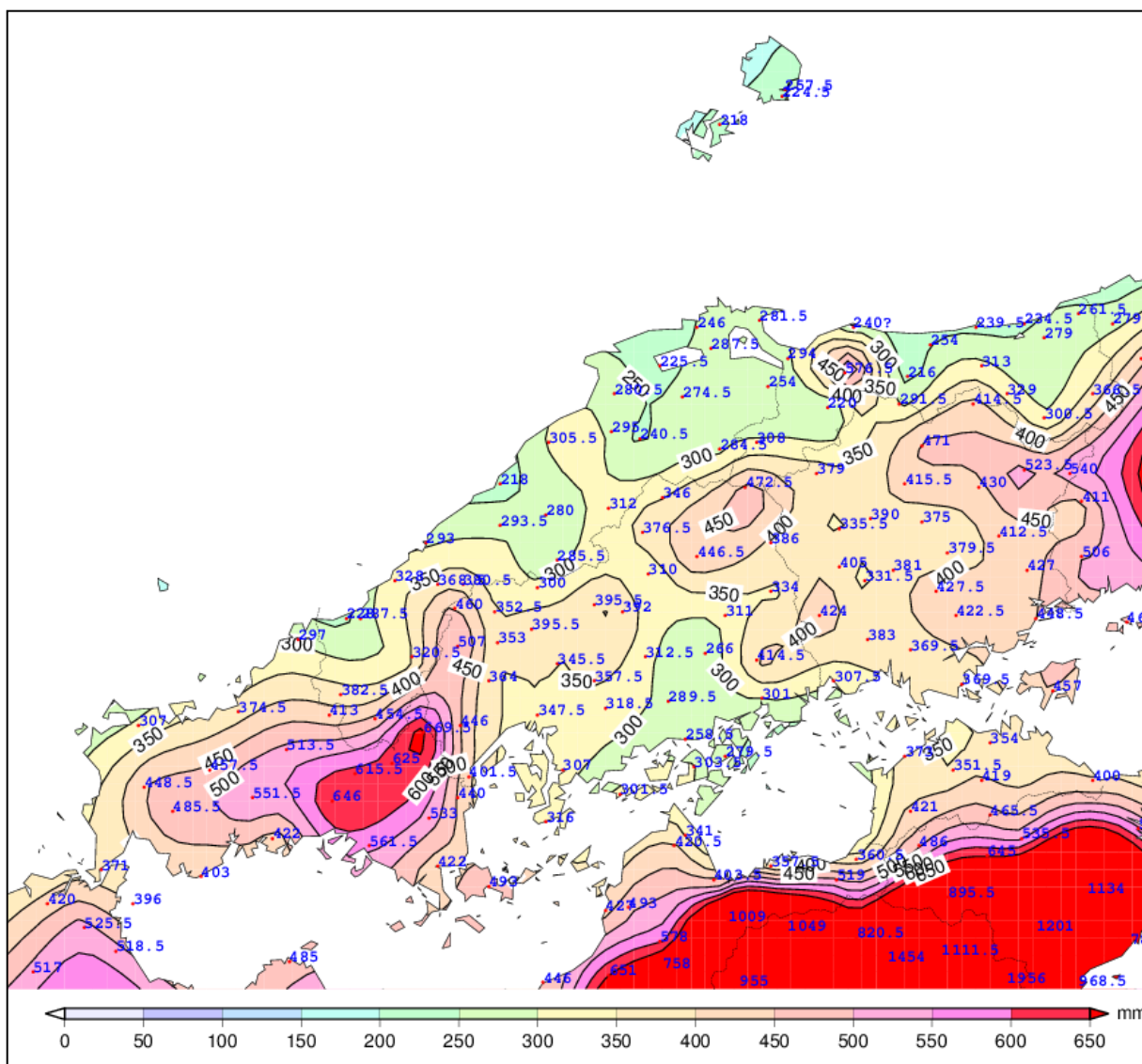
※ : 梅雨入りの 6 月 2 日から梅雨明けの前日の 7 月 23 日までの 52 日間

梅雨期間と広島地方気象台での降水量の合計

	梅雨期間		梅雨期間の降水量※ (同期間の平年の降水量)
	入り	明け	
平成 27 年	6 月 2 日ごろ	7 月 24 日ごろ	337.0mm
平年	6 月 7 日ごろ	7 月 21 日ごろ	(462.8mm)

※：梅雨期間の降水量（6月2日から7月23日までの52日間の降水量）

広島地方気象台の梅雨期間の降水量（337.0mm）は、同期間の平年の降水量（462.8mm）に比べて少なかった。



平成 27（2015）年の梅雨の時期（6～7月）の降水量分布（単位：mm）

広島地方気象台の梅雨の時期（6～7月）の降水量（347.5mm）は、平年（505.6mm）より少なかった。

5 台風の状況

(1) 台風の特徴

台風の発生数は27個（平年25.6個）、日本への接近数は14個（平年11.4個）、年間上陸数は4個（平年2.7個）となった。

中国地方（山口県を除く）への接近（鳥取県、島根県、岡山県、広島県にいずれかの気象官署から300km以内に入った場合）は、台風第11号、台風第12号、台風第15号、台風第18号の4個（平年2.6個）だった。

台風第11号は、7月16日から17日にかけて、四国の南海上を北上して高知県に上陸した後、岡山県倉敷市付近に再上陸して日本海に抜けた。この台風から暖かく湿った空気が流れ込み東部を中心に雨となった。

台風第12号は、7月25日から26日にかけて、九州西海上を弱まりながら北上して長崎県に上陸した後、熱帯低気圧に変わった。広島県は太平洋高気圧の圏内で影響はなかった。

台風第15号は、8月24日から25日にかけて、東シナ海を北上して鹿児島県に上陸し、九州地方を通り日本海に抜けた。この台風から暖かく湿った空気が流れ込んで大雨となった。

台風第18号は、9月8日から9日にかけて、日本の南海上を北上して愛知県に上陸し、東海地方から北陸地方を通り日本海に抜けた。この台風からの湿った空気が日本海から流れ込んで雨となった。

(2) 台風の発生数

年 \ 月	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	合計
平成27年(2015年)	1	1	2	1	2	2	3	4	5	4	1	1	27
平年値 (1981~2010年)	0.3	0.1	0.3	0.6	1.1	1.7	3.6	5.9	4.8	3.6	2.3	1.2	25.6

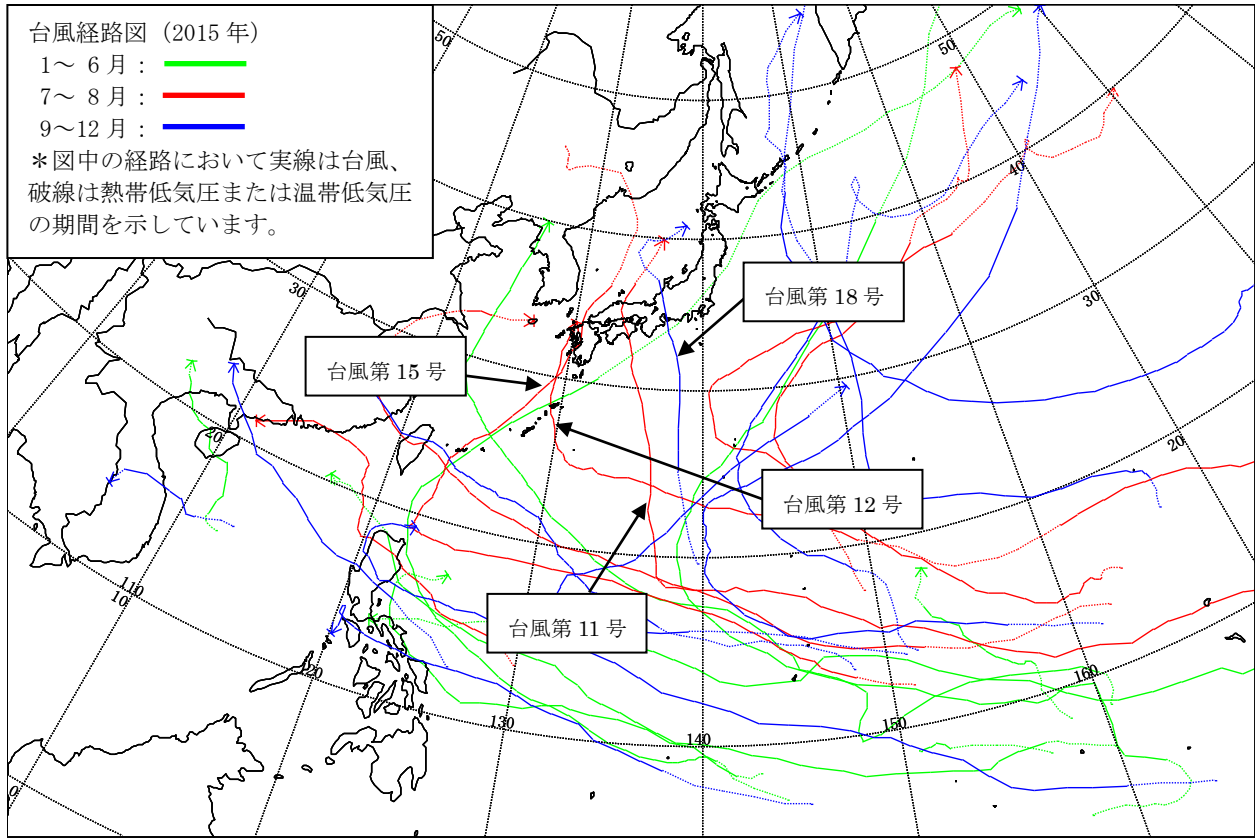
(3) 台風の上陸数

年 \ 月	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	合計
平成27年(2015年)	0	0	0	0	0	0	2	1	1	0	0	0	4
平年値 (1981~2010年)					0.0	0.2	0.5	0.9	0.8	0.2	0.0		2.7

注：台風が中心が北海道、本州、四国、九州の海岸に達した場合を「上陸した台風」としている。

(4) 中国地方（山口県を除く）への接近数

年 \ 月	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	合計
平成27年(2015年)	0	0	0	0	0	0	2	1	1	0	0	0	4
平年値 (1981~2010年)					0.0	0.3	0.5	0.8	0.9	0.2	0.0		2.6



第2章 地震（広島地方気象台提供）

1 月別・震度別地震回数

平成27年（2015年）に、広島市内で震度1以上を観測した地震は14回であった。

月別の震度1以上の地震は、2月が4回と最も多く、最大震度は、7月13日に大分県南部で発生した地震（M5.7）により観測した震度3である。

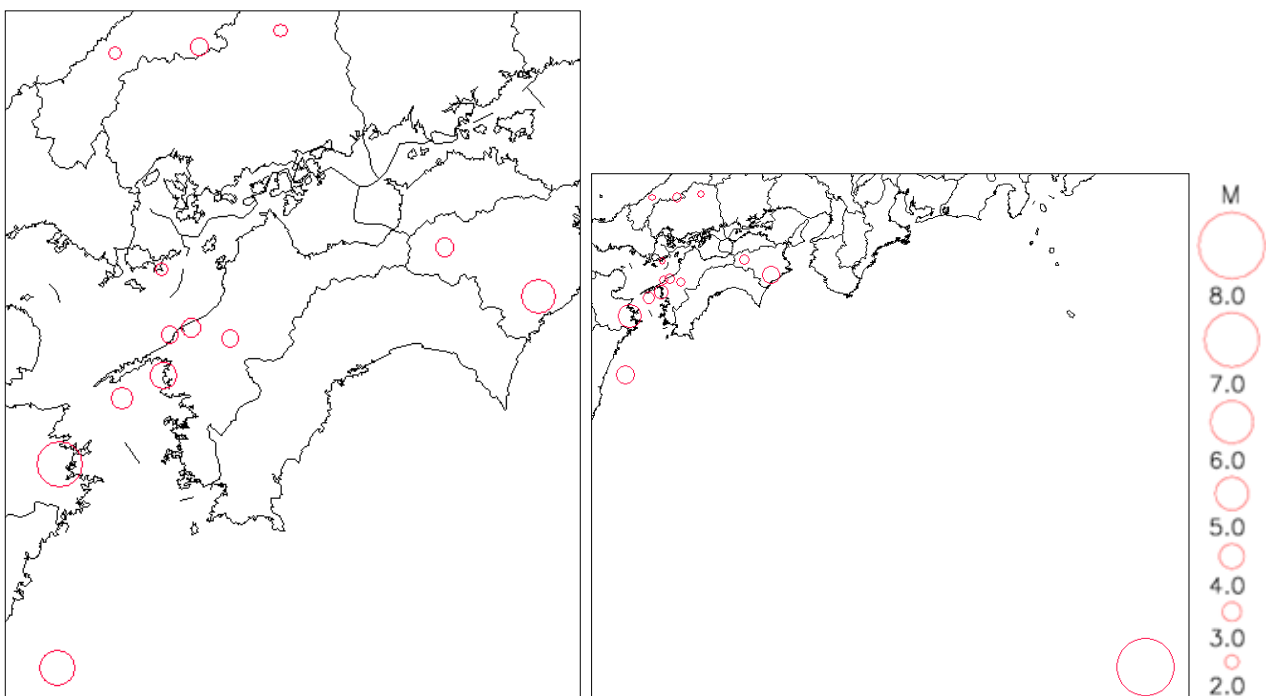
震度1以上の地震回数表（最大震度別）

最大震度 \ 月	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	合計
1		4	1	2	1		2	2	1				13
2													0
3							1						1
4													0
5弱													0
5強													0
6弱													0
6強													0
7													0
合計	0	4	1	2	1	0	3	2	1	0	0	0	14

2 震度1以上を観測した地震の震央分布図

下図は、平成27年（2015年）に広島市内で震度1以上を観測した地震の震央分布を示したもので、1つの○が1つの地震を、図中の○印の大小は地震の規模（M：マグニチュード）を表している。

広島市内で震度1以上を観測した地震は、中国地方で発生した地震が4回、四国地方で発生した地震が7回、九州地方で発生した地震が2回、小笠原諸島で発生した地震が1回であった。



平成27年（2015年）に震度1以上を観測した地震の震央分布図

3 広島市各地の震度

【広島市内の震度1以上の地震一覧】

平成27年(2015年)1月1日~12月31日

通年番号	発震時刻(年月日分)	震央地名	緯度	経度	深さ	地震の規模:M (マグニチュード)

広島市内の各地の震度						

No1	2015年02月03日14時07分	愛媛県南予	33° 33.3' N	132° 44.4' E	44km	M3.9
	震度 1: 広島中区羽衣町*, 広島南区宇品海岸*, 広島西区己斐*, 広島安佐南区祇園*, 広島安佐北区可部南*, 広島安芸区中野*					

No2	2015年02月05日06時05分	島根県西部	34° 48.7' N	132° 06.2' E	12km	M3.4
	震度 1: 広島安佐北区可部南*					

No3	2015年02月06日10時25分	徳島県南部	33° 44.0' N	134° 22.2' E	11km	M5.1
	震度 1: 広島中区上八丁堀, 広島南区宇品海岸*, 広島西区己斐*, 広島安佐南区祇園*, 広島安佐北区可部南*, 広島安芸区中野*					

No4	2015年02月14日23時17分	徳島県北部	33° 57.3' N	133° 52.5' E	41km	M4.0
	震度 1: 広島安佐北区可部南*					

No5	2015年03月01日18時57分	安芸灘	33° 51.5' N	132° 22.4' E	48km	M3.4
	震度 1: 広島中区羽衣町*, 広島西区己斐*, 広島安佐北区可部南*					

No6	2015年04月08日08時51分	愛媛県南予	33° 36.1' N	132° 32.0' E	47km	M4.1
	震度 1: 広島中区上八丁堀, 広島中区羽衣町*, 広島南区宇品海岸*, 広島西区己斐*, 広島安佐南区祇園*, 広島安佐北区可部南*, 広島安芸区中野*, 広島佐伯区利松*					

No7	2015年04月26日06時16分	島根県西部	34° 50.7' N	132° 33.7' E	17km	M4.0
	震度 1: 広島中区羽衣町*, 広島西区己斐*, 広島安佐北区可部南*, 広島安芸区中野*, 広島佐伯区利松*					

No8	2015年05月30日20時23分	小笠原諸島西方沖	27° 51.6' N	140° 40.9' E	682km	M8.1
	震度 1: 広島中区上八丁堀, 広島南区宇品海岸*, 広島西区己斐*, 広島安佐南区祇園*, 広島安佐北区可部南*					

No9	2015年07月03日04時55分	伊予灘	33° 34.2' N	132° 25.2' E	43km	M3.9
	震度 1: 広島中区羽衣町*, 広島西区己斐*, 広島安佐北区可部南*, 広島安芸区中野*					

No10	2015年07月13日02時52分	大分県南部	32° 59.5' N	131° 51.3' E	58km	M5.7
	震度 3: 広島中区上八丁堀, 広島南区宇品海岸*, 広島安佐南区祇園*					
	震度 2: 広島中区羽衣町*, 広島東区福田*, 広島西区己斐*, 広島安佐北区可部南*, 広島安芸区中野*, 広島佐伯区利松*					
	震度 1: 広島佐伯区湯来町和田*					

 通年番号 発震時刻 (年月日分) 震央地名 緯度 経度 深さ 地震の規模 : M
 (マグニチュード)

広島市内の各地の震度

 No11 2015年07月24日17時53分 愛媛県南予 33° 23.3' N 132° 23.5' E 44km M4.6
 震度 1:広島中区上八丁堀,広島中区羽衣町*,広島南区宇品海岸*,広島西区己斐*,
 広島安佐南区祇園*,広島安佐北区可部南*, 広島安芸区中野*,広島佐伯区利松*

 No12 2015年08月21日16時54分 豊後水道 33° 17.3' N 132° 10.4' E 48km M4.3
 震度 1:広島中区上八丁堀,広島西区己斐*,広島安佐南区祇園*, 広島安佐北区可部南*,
 広島安芸区中野*

 No13 2015年08月26日07時51分 日向灘 32° 06.4' N 131° 51.8' E 34km M5.2
 震度 1:広島中区上八丁堀,広島安佐南区祇園*

 No14 2015年09月13日00時18分 広島県北部 34° 55.1' N 133° 00.1' E 10km M3.5
 震度 1:広島安佐北区可部南*

 注) 震度の地名に*印を付したものは、気象庁以外の震度観測点によるものである。

第3章 風水害

第1 被害発生状況

1 災害別

行政区別			ア	イ	ウ	エ	オ	カ	キ	ク	ケ	
災害種別	区分		4月19日～ 4月20日 大雨	5月12日 大雨	6月25日～ 6月26日 大雨	7月9日 大雨	7月13日～ 7月14日 大雨	7月15日～ 7月17日 台風11号	8月17日 大雨	8月24日～ 8月25日 台風15号	8月31日～ 9月1日 大雨	
	総数											
人	死者・行方不明者	人										
	負傷者	人	6					1		5		
住家	全壊	棟										
	半壊	棟										
	一部破損	棟										
	床上浸水	棟										
	床下浸水	棟										
非住家	棟											
公共建物	棟											
公共土木施設	道路・橋梁	流失箇所										
		損壊	箇所									
		冠水	箇所									
		土砂流入	箇所	1		1						
	河川・堤防・護岸	決壊	箇所									
		欠け崩れ	箇所									
		越水・溢水	箇所									
		その他	箇所									
その他	箇所	2		1						1		
農地・農林・水産	田・畑	流失	箇所									
		埋没	箇所									
		冠水	箇所									
	その他	箇所										
山崖崩れ	山・がけ崩れ(自然)	箇所	2		1						1	
	がけ崩れ(人工)	箇所	1				1					
その他	箇所	4					1		2	1		
避難	世帯	人員	405	8	7	2	1	36	45	14	274	18
		人員	716	16	9	3	2	60	86	21	495	24
活動人員	計	人	7,642	105	447	429	424	570	504	718	2,355	2,090
	消防職員	人	4,368		358	364	362	362	400	517	1,006	999
	市・区職員	人	2,883	105	89	53	62	208	104	201	1,127	934
	消防団員	人	432					53			222	157
	その他	人	29			12		3			12	2
応急措置実施箇所	箇所	1						1				
使用資材	万年土俵	俵	1								1	
	水防シート	枚										
	丸太又は鉄杭	本										
	パック縄	巻										

※活動人員、応急措置実施箇所、使用資材については、資料から数値取得できるもののみを計上。

2 行政区別

ア 4月19日～4月20日 大雨

区 分		総数	中区	東区	南区	西区	安佐南区	安佐北区	安芸区	佐伯区
災害種別										
避難 (自主避難)	世帯	8					5	3		
	人員	16					11	5		

イ 5月12日 大雨

区 分		総数	中区	東区	南区	西区	安佐南区	安佐北区	安芸区	佐伯区
災害種別										
避難 (自主避難)	世帯	7					6	1		
	人員	9					7	2		

ウ 6月25日～6月26日 大雨

区 分		総数	中区	東区	南区	西区	安佐南区	安佐北区	安芸区	佐伯区
災害種別										
公共土木施設	道路・橋梁(土砂流入)	箇所	1					1		
	その他	〃	1					1		
山・がけ崩れ(自然)		〃	1					1		
避難 (自主避難)	世帯	2					1	1		
	人員	3					1	2		

エ 7月9日 大雨

区 分		総数	中区	東区	南区	西区	安佐南区	安佐北区	安芸区	佐伯区
災害種別										
避難 (自主避難)	世帯	1						1		
	人員	2						2		

オ 7月13日～7月14日 大雨

区 分		総数	中区	東区	南区	西区	安佐南区	安佐北区	安芸区	佐伯区
災害種別										
山・がけ崩れ(人工)		箇所	1					1		
避難 (自主避難)	世帯	36					21	15		
	人員	60					36	24		

カ 7月15日～7月17日 台風11号

区 分		総数	中区	東区	南区	西区	安佐南区	安佐北区	安芸区	佐伯区
災害種別										
人 (負傷)	箇所	1			1					
その他		〃	1							1
避難 (自主避難)	世帯	45			1		18	23		3
	人員	86			1		30	51		4

キ 8月17日 大雨

区 分		総数	中区	東区	南区	西区	安佐南区	安佐北区	安芸区	佐伯区
災害種別										
避難 「避難勧告」	世帯	14					13	1		
	人員	21					19	2		

ク 8月24日～8月25日 台風15号

区 分		総数	中区	東区	南区	西区	安佐南区	安佐北区	安芸区	佐伯区
災害種別										
人 (負傷者)	人	5					3	1		1
その他	箇所	2	1			1				
避難 「避難勧告・避難指示」	世帯	274			1		107	86		80
	人員	495			3		185	188		119

ケ 8月31日～9月1日 大雨

区 分		総数	中区	東区	南区	西区	安佐南区	安佐北区	安芸区	佐伯区
災害種別										
公共土木施設 (その他)	箇所	1							1	
山・がけ崩れ (自然)	〃	1					1			
その他	〃	1						1		
避難 「避難勧告」	世帯	18					11	7		
	人員	24					13	11		

第2 災害応急組織を編成して対応した災害の概要

平成27年4月、急激な気象の変化や不測の事態に備えるため、早い段階からの情報収集、判断体制となるよう、新たに「注意体制」、「警戒体制」を設置し、災害応急組織体制を強化した。

1 8月24日～8月25日 台風第15号

(1) 気象情報等の発表状況

月 日	時 間	内 容	
8月24日(月)	20時00分	全市注意体制設置	
		安佐南区避難準備情報発令(梅林、八木の JR 可部線以西)	
		安佐北区避難準備情報発令 (可部、可部南、三入、三入東、大林、亀山、亀山南)	
	21時22分	大雨・雷・強風・波浪・洪水注意報発表	
8月25日(火)	6時21分	大雨・洪水・暴風・波浪警報、高潮・雷注意報発表	
		全市警戒体制設置	
	6時24分	安佐南区避難勧告発令(梅林、八木の JR 可部線以西)	
		安佐北区避難勧告発令 (可部、可部南、三入、三入東、大林、亀山、亀山南)	
	10時30分	広島市災害警戒本部設置	
		佐伯区災害警戒本部設置 (メッシュ情報)	
	10時42分	佐伯区避難準備情報発令 (湯来西)	
	10時59分	佐伯区避難準備情報発令 (湯来南)	
	11時10分	佐伯区避難準備情報発令 (湯来東)	
		水内川氾濫注意水位超過	
	11時44分	安佐南区災害警戒本部設置 (メッシュ情報)	
	11時50分	安佐南区避難準備情報発令 (戸山)	
		広島市土砂災害警戒情報発表	
		広島市、安佐南区、安佐北区、佐伯区災害対策本部設置 (メッシュ情報)	
		中区、東区、南区、西区、安芸区災害警戒本部設置 (メッシュ情報)	
			中区(江波・舟入)、東区、南区、西区、安芸区避難準備情報発令
	12時02分	安佐南区避難指示発令(梅林、八木の JR 可部線以西)	
12時03分	安佐北区避難指示発令 (可部、可部南、三入、三入東、大林、亀山、亀山南)		
	安佐南区避難勧告(戸山)		
12時09分	佐伯区避難勧告(土砂災害)発令(湯来西、湯来東、湯来南、河内)		
12時12分	安佐北区避難勧告発令(久地)		
12時20分	水内川避難判断水位超過		

月 日	時 間	内 容
8月25日(火)	13時10分	水内川氾濫危険水位超過
	13時40分	佐伯区避難勧告(氾濫)発令(湯来東・湯来西)
	14時50分	太田川上流氾濫注意情報発表
	15時15分	土砂災害警戒情報解除
	17時55分	安佐南区及び安佐北区の暫定運用地域を除き、避難勧告及び避難準備情報を解除
	18時45分	広島市、安佐南区、安佐北区、佐伯区災害対策本部廃止
		中区、東区、南区、西区、安芸区災害警戒本部廃止
		全市警戒体制への移行
	19時26分	大雨、洪水警報、高潮注意報解除
		大雨、強風、波浪、洪水注意報発表
安佐南区避難指示解除(梅林、八木のJR可部線以西)		
安佐北区避難指示解除(可部、可部南、三入、三入東、大林、亀山、亀山南)		
全市注意体制への移行		
23時12分	洪水注意報解除(大雨、強風、波浪注意報継続)	
8月26日(水)	4時13分	強風、波浪注意報解除
	10時52分	大雨注意報解除
		安佐南区・安佐北区避難準備情報解除
	11時00分	全市注意体制廃止

(2) 本部体制等の設置状況

区分	市	中 区	東 区	南 区	西 区	安佐南区	安佐北区	安芸区	佐伯区
注意体制設置	8月24日 20時00分								
警戒体制設置	8月25日 6時21分								
災害警戒本部設置	8月25日 10時30分	8月25日 11時50分				8月25日 11時44分	—	8月25日 11時50分	8月25日 10時30分
災害対策本部設置(1次体制)	8月25日 11時50分	—				8月25日 11時50分	—	—	8月25日 11時50分
災害対策本部廃止	8月25日 18時45分	—				8月25日 18時45分	—	—	8月25日 18時45分
災害警戒本部廃止	8月25日 18時45分								
警戒体制廃止	8月25日 19時26分								
注意体制廃止	8月26日 11時00分								

(3) 動員の状況（最大動員時の人数）

区分	総員	各局・区役所職員	消防職員	消防団員
注意体制	437	63	374 (うち当務者 342)	—
警戒体制	881	220	611 (うち当務者 342)	50
災害警戒本部	1,049	375	616 (うち当務者 342)	58
災害対策本部	2,355	1,127	1,006 (うち当務者 342)	222

(4) 被害状況等

区分		総数	中	東	南	西	安佐南	安佐北	安芸	佐伯
被害種別	人									
人（負傷者）	人	5					3	1		1
その他	箇所	2	1			1				

(5) 避難状況

区分	総数	中	東	南	西	安佐南	安佐北	安芸	佐伯
世帯	274			1		107	86		80
人員	495			3		185	188		119

区名	地区	勧告・指示	避難所	開設日時	閉鎖日時	最大世帯数及び人数
南区	黄金山	—	黄金山小学校	25日 11:50	25日 17:55	1世帯 3人
安佐南区	梅林	指示	梅林小学校	24日 20:05	26日 10:52	64世帯 114人
	八木	指示	八木小学校	24日 20:10	26日 10:52	28世帯 50人
	戸山	避難勧告	戸山小学校	25日 12:01	25日 18:30	15世帯 21人
安佐北区	可部	指示	可部小学校	24日 20:00	25日 19:26	14世帯 30人
	可部南	指示	可部南小学校	24日 20:00	25日 19:26	6世帯 9人
	三入	指示	三入小学校	24日 20:20	25日 19:26	11世帯 17人
	三入東	指示	三入東小学校	24日 20:00	25日 19:26	4世帯 8人
	大林	指示	大林小学校	24日 19:43	25日 19:26	21世帯 35人
	亀山	指示	亀山中学校	24日 20:10	25日 19:26	12世帯 46人
	亀山南	指示	亀山南小学校	24日 20:30	25日 19:26	18世帯 43人
佐伯区	湯来西	避難勧告	湯来西公民館	25日 11:10	25日 18:45	17世帯 25人
			みどり会館	25日 11:40	25日 18:45	6世帯 8人
	湯来南	避難勧告	湯来南小学校	25日 11:00	25日 18:45	6世帯 5人
	湯来東	避難勧告	サンピアゆき	25日 8:25	25日 18:45	38世帯 62人
			下五原集会所	25日 10:56	25日 18:45	13世帯 19人
合計						274世帯 495人

2 8月31日～9月1日 大雨

(1) 気象情報等の発表状況

月 日	時 間	内 容
8月31日(月)	3時07分	大雨注意報発表(雷・高潮注意報継続) 全市注意体制設置
	3時15分	安佐南区避難準備情報発令(被災地)
	3時20分	安佐北区避難準備情報発令(被災地)
	17時26分	洪水注意報発表(大雨・雷・高潮注意報継続)
	19時00分	佐伯区湯来西学区避難準備情報発令
9月1日(火)	3時30分	広島市・佐伯区災害警戒本部設置(メッシュ情報)
	4時13分	大雨警報発表 広島市警戒体制設置(市及び佐伯区を除く。)
	4時19分	安佐南区・安佐北区避難勧告発令(被災地)
	4時40分	佐伯区湯来東学区避難準備情報発令
	5時08分	大雨に伴う注意喚起(全市)
	6時30分	広島市・佐伯区災害対策本部設置(第1次体制)(メッシュ情報)
		佐伯区湯来西学区避難勧告発令 佐伯区湯来南学区避難準備情報発令
	6時50分	安佐北区旧小河内学区避難準備情報発令 安佐南区・安佐北区災害警戒本部設置(メッシュ情報)
		6時58分
	7時12分	安佐南区伴・戸山学区避難準備情報発令
	7時20分	安佐南区災害対策本部設置(第1次体制)(メッシュ情報)
	7時22分	安佐南区伴・戸山学区避難勧告発令
	7時34分	安佐南区伴南・伴東・大塚学区避難準備情報発令
	7時35分	安佐北区鈴張・飯室学区避難準備情報発令(鈴張川)
	7時45分	安佐北区災害対策本部設置(第1次体制)(メッシュ情報)
	7時48分	安佐北区鈴張・飯室学区避難勧告発令(鈴張川)
	8時11分	安佐北区久地・飯室学区避難準備情報発令
	10時21分	安佐北区久地南学区避難準備情報発令
	17時36分	洪水注意報解除(大雨警報、雷・高潮注意報継続)
	20時19分	大雨警報解除(大雨注意報発表、雷・高潮注意報継続)
		広島市・安佐南区・安佐北区・佐伯区災害対策本部廃止及び災害警戒本部の設置 中区・東区・南区・西区・安芸区警戒体制の廃止及び注意体制の設置
	20時22分	安佐南区伴学区・戸山学区・八木学区・梅林学区、 安佐北区可部学区・可部南学区・三入学区・三入東学区・大林学区・ 亀山学区・亀山南学区及び佐伯区湯来東学区・湯来西学区の避難勧告 の解除及び避難準備情報の発令
	20時25分	安佐北区鈴張学区・飯室学区(鈴張川)の避難勧告の解除
	23時05分	大雨・雷注意報解除(高潮注意報継続)
		広島市・安佐南区・安佐北区・佐伯区災害警戒本部の廃止 広島市・安佐南区・安佐北区・佐伯区災害警戒体制の廃止及び全市注 意体制の廃止
	23時09分	安佐南区伴学区・戸山学区・伴南学区・伴東学区・大塚学区・梅林学 区・八木学区、安佐北区可部学区・可部南学区・三入学区・三入東学 区・大林学区・亀山学区・亀山南学区・旧小河内学区・久地学区・久 地南学区・飯室学区及び佐伯区湯来東学区・湯来西学区・湯来南学区 の避難準備情報の解除

(2) 本部体制等の設置状況

区分	市	中区	東区	南区	西区	安佐南区	安佐北区	安芸区	佐伯区
注意体制設置	8月31日 3時07分								
警戒体制設置	—	9月1日 4時13分						—	—
災害警戒本部設置	9月1日 3時30分	—	—	—	—	9月1日 6時50分	9月1日 6時50分	—	9月1日 3時30分
災害対策本部設置 (1次体制)	9月1日 6時30分	—	—	—	—	9月1日 7時20分	9月1日 7時45分	—	9月1日 6時30分
災害対策本部廃止	9月1日 20時19分	—	—	—	—	9月1日 20時19分	9月1日 20時19分	—	9月1日 20時19分
災害警戒本部廃止	9月1日 23時05分	—	—	—	—	9月1日 23時05分	9月1日 23時05分	—	9月1日 23時05分
警戒体制廃止	9月1日 23時05分	9月1日 20時19分			—	9月1日 23時05分	9月1日 23時05分	9月1日 20時19分	9月1日 23時05分
注意体制廃止	9月1日 23時05分								

(3) 動員の状況（最大動員時の人数）

区分	総員	各局・区役所職員	消防職員	消防団員
注意体制	433	73	360 (うち当務者 342)	
災害警戒本部	1,108	397	629 (うち当務者 342)	82
災害対策本部	2,090	934	999 (うち当務者 342)	157

(4) 被害状況等

区分 被害種別		区分								
		総数	中	東	南	西	安佐南	安佐北	安芸	佐伯
公共土木施設 (その他)	箇所	1							1	
山・がけ崩れ (自然)	〃	1					1			
その他	〃	1						1		

(5) 避難状況

区分	総数	中	東	南	西	安佐南	安佐北	安芸	佐伯
世帯	18					11	7		
人員	24					13	11		

区名	地区	指示・勧告	避難所	開設日時	閉鎖日時	最大世帯者数及び人数
安佐南区	梅林	避難勧告	梅林小学校	8/31 3:46	9/1 23:05	6世帯7人
	八木	避難勧告	八木小学校	8/31 3:41	9/1 23:05	2世帯3人
	伴	避難勧告	安佐南区スポーツセンター	9/1 7:26	9/1 23:05	3世帯3人
安佐北区	可部	避難勧告	可部小学校	8/31 18:00	9/1 20:19	3世帯6人
	亀山	避難勧告	亀山中学校	8/31 18:04	9/1 20:19	1世帯2人
	亀山南	避難勧告	亀山南小学校	8/31 18:03	9/1 20:19	3世帯3人
合計						18世帯24人

第4章 火災

1 火災発生状況

平成27年（2015年）中における火災は289件で、平成26年（2014年）に比べ、72件減少した。

火災種別ごとの件数は、「建物火災」が190件で全体の約66%を占め、次いで「その他の火災」が79件、「車両火災」が17件、「林野火災」が3件となっている。

死傷者については、死者が19人（前年比11人減）、負傷者が62人（前年比増減なし）となっている。

行政区別火災発生状況

区分	火災件数 (件)	火災種別内訳						焼損面積		損害額 (千円)	死傷者(人)	
		建物	林野	車両	船舶	航空機	その他	建物(m ²)	林野(a)		死者	負傷者
中	57(1)	47(1)	0	3	0	0	7	911	0	102,909	8	16
東	23	14	0	0	0	0	9	168	0	21,292	3	4
南	27	19	1	1	0	0	6	355	0	32,604	3	3
西	48	34	0	5	0	0	9	153	0	15,628	3	8
安佐南	36	22	0	2	0	0	12	2,390	0	108,950	0	1
安佐北	48	21	2	5	0	0	20	648	7	70,333	2	6
安芸	24	15	0	0	0	0	9	189	0	30,936	0	7
佐伯	26	18	0	1	0	0	7	324	0	56,553	0	17
合計	289(1)	190(1)	3	17	0	0	79	5,138	7	439,205	19	62
平成26年 合計	361(2)	219(1)	8	37	1(1)	0	96	5,445	86	619,375	30	62
前年比	▲72 (▲1)	▲29 (0)	▲5	▲20	▲1 (▲1)	0	▲17	▲307	▲79	▲180,170	▲11	0

※（ ）は爆発のみの数値で内数。

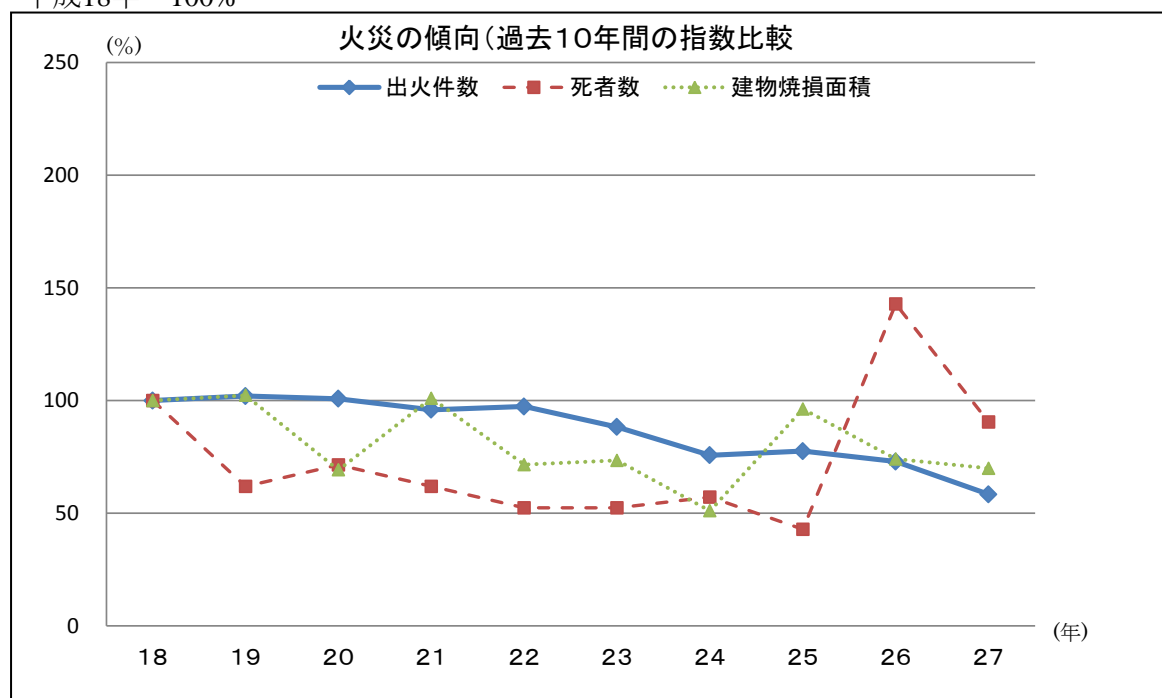
2 1日当たり及び1件当たりの火災概況

区 分		数 値
全 火 災 1 日 当 たり	出 火 件 数	0.79 件
	損 害 額	120.3 万円
	建 物 焼 損 面 積	14.1 m ²
	林 野 焼 損 面 積	0.02 a
全 火 災 1 件 当 たり	損 害 額	152.0 万円
建 物 火 災 1 件 当 たり	損 害 額	227.2 万円
	焼 損 面 積	27 m ²
	焼 損 棟 数	1.22 棟
林 野 火 災 1 件 当 たり	損 害 額	0 万円
	焼 損 面 積	2.3 a
車 両 火 災 1 件 当 たり	損 害 額	41.1 万円
	焼 損 台 数	1.29 台
船 舶 火 災 1 件 当 たり	損 害 額	—
	焼 損 艘 数	—
航 空 機 火 災 1 件 当 たり	損 害 額	—
	焼 損 機 数	—
そ の 他 火 災 1 件 当 たり	損 害 額	0.6 万円

3 火災件数と死者数の推移（過去10年間）

区 分	平成18年	平成27年
出 火 件 数	495 件	289 件
建 物 焼 損 面 積	7,349 m ²	5,138 m ²
死 者 数	21 人	19 人

平成18年=100%



第5章 ガス災害

平成27年（2015年）中のガスによる事故発生件数は7件で、平成26年（2014年）の13件よりも6件減少している。このうち、火災に至ったものは2件である。

1 ガス事故件数及び死傷者数

(表1)

区 分	都 市 ガ ス						液化石油ガス			計		
	件数 (件)	死者 (人)	負傷者 (人)	簡 易 ガ ス			件数 (件)	死者 (人)	負傷者 (人)	件数 (件)	死者 (人)	負傷者 (人)
				件数 (件)	死者 (人)	負傷者 (人)						
爆発・火災事故	1		1				1			2		1
爆発のみに 留まったもの												
漏えい事故	4						1			5		
計	5		1				2			7		1
平成26年 比較	平成26年計	8 (1)		1			5		3	13 (1)		4
	増減	▲3 (▲1)					▲3		▲3	▲6 (▲1)		▲3

注：この表は、都市ガス及び液化石油ガスに係る爆発・火災事故及び漏えい事故（以下「ガス事故」という。）の件数及び死傷者数について調査したもので、その記載については次による。

1 ガス事故の態様の別は次によること。

(1) 爆発・火災事故：都市ガス又は液化石油ガスが着火物となって生じた爆発・火災事故をいう。

なお、爆発のみで留まったものについては該当欄に再掲。

(2) 漏えい事故：人的損害を生じ、又はそのまま放置すれば爆発・火災若しくは人的損害を生じるおそれがある都市ガス又は液化石油ガスの漏えいであって、消防機関が出場したもののうち、(1)に該当しないものをいう。

2 都市ガスの欄には、ガス事業法第3条及び第37条の2の許可を受けたガス事業者によって供給されるガスによる事故について記載し、簡易ガスの欄にはガス事業法第37条の2の許可を受けたガス事業者によって供給されるガスによる事故について再掲。

3 死者の欄には、爆発・火災事故は48時間以内に、漏えい事故は初診時において、それぞれ死亡が確認された者の数を記載。

4 表中の括弧内には、自損行為に起因する事故について再掲。

2 ガス事故発生場所別被害状況

(表2)

発生場所 ガス種別	ガス 製 造 施 設	ガ ス 導 管	容 器 に よ り 運 搬	消 費 先								計	
				住 宅		旅 館	飲 食 店	学 校 ・ 病 院	工 場	そ の 業 他 所 の 等	小 計		
				住 宅	共 同 住 宅								
都 市 ガ ス	件 数 (件)		4	1 (1)	1 (1)							1 (1)	5 (1)
	死 者 (人)												
	負 傷 者 (人)				1 (1)							1 (1)	1 (1)
液 化 石 油 ガ ス	件 数 (件)		1	1 (1)								1 (1)	2 (1)
	死 者 (人)												
	負 傷 者 (人)												

注：この表は、ガス事故の発生場所別の被害状況を調査したもので、その記載については、表1の注：1～3によるほか次による。

1 ガス製造施設の欄には、ガス事業者の敷地内にある施設又は液化石油ガスの製造業者若しくは販売業者の敷地内にある施設における事故について記載。

2 ガス導管の欄には、ガス導管又はガス供給管部分で発生した事故のうち、注：4に該当しないものについて記載。

3 容器による運搬の欄には、液化石油ガスを容器により運搬していた際に発生した事故について記載。

4 消費先の欄には、次の場所において発生した事故について、それぞれ該当する区分の欄に記載。

(1) 都市ガス：建物内のガス導管からガス器具まで。(2) 液化石油ガス：ボンベ等が消費先敷地内に設置されている場合にあつては当該ボンベ等からガス器具まで、それ以外の場合にあつては当該建物内のガス導管からガス器具まで。

5 表中の括弧内には、爆発・火災に係る被害について再掲。

3 消費先におけるガス事故発生原因別件数

(表3)
(件)

事故原因の別		ガス種類		液化石油ガス	小計
		都市ガス	簡易ガス		
ガス事業者・工事業者に係る原因	ガス器具の欠陥によるもの				
	工事不良・維持管理不良によるもの				
	ガスの漏えい発見後の不適切な処理によるもの				
消費者に係る原因	コックの誤操作・火の立ち消え等による生ガスの放出によるもの				
	器具・ホースの取扱・管理不良によるもの	1 (1)		1 (1)	2 (2)
	ガスの漏えい発見後の不適切な処理によるもの				
	自損行為によるもの				
その他	いたづら等故意によるもの				
	不明・その他				
計		1 (1)		1 (1)	2 (2)

注：この表は、消費先（表2の注：4による。）におけるガス事故の主要原因と考えられるものについて、その件数を調査したもので、記載については、表1の注：1及び2によるほか次による。

- 1 原因が重複して考えられるものは、主たるものについてのみ計上。
- 2 表中の括弧内には、爆発・火災に係る件数を再掲。

第6章 危険物災害

平成27年（2015年）中の危険物に係る事故は12件発生しており、平成26年（2014年）の13件から1件減少している。事故種別では、火災に至らなかった製造所等の事故が7件、無許可施設の火災が1件、火災に至らなかった無許可施設の事故が4件である。危険物施設別では、給油取扱所6件、地下タンク貯蔵所1件、その他5件となっている。

(件)

区 分	合 計	危険物施設別（許可）										その他（届出）				
		小 計	製 造 所	屋 内 貯 蔵 所	屋 外 タ ン ク	貯 蔵 所	屋 内 タ ン ク	貯 蔵 所	地 下 タ ン ク	貯 蔵 所	移 動 タ ン ク		貯 蔵 所	給 油 取 扱 所	移 送 取 扱 所	一 般 取 扱 所
製造所等の火災																
火災に至らなかった製造所等の事故	7	7						1			6					
無許可施設の火災	1															1
火災に至らなかった無許可施設の事故	4															4
危険物運搬中の火災																
危険物運搬中の漏えい事故																
合 計	12	7						1			6					5
平成26年 比較	平成26年計	13	9								8		1			4
	増減	-1	-2					+1			-2		-1			+1

【参考 1】救急活動

平成 27 年（2015 年）中の救急自動車等による出動件数は 54,330 件で、平成 26 年（2014 年）の 52,733 件と比べ 1,597 件（対前年比 3.0%）増加している。この出動件数は 1 日に約 148.8 件、約 9 分 40 秒ごとに 1 件出動したことになる。

出動件数を行政区別にみると、中区の 10,447 件が最も多く、次いで安佐南区の 8,581 件、南区の 8,195 件の順となっている。事故別では、「急病」が 33,240 件で最も多く、全出動件数の約 61.2% を占め、次いで「一般負傷」、「交通事故」の順となっている。

1 事故別出動件数・搬送人員

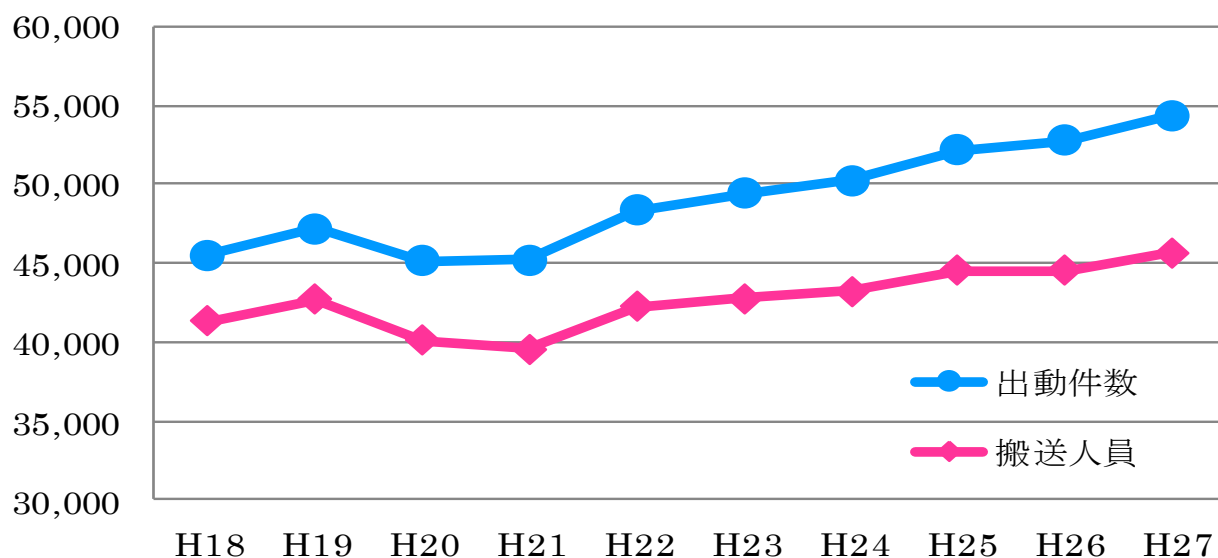
項目	行政区別	総数	事 故 別										
			急病	一般負傷	交通事故	自損行為	労働災害	運動競技	加害	火災	水難	自然災害	その他
出動件数 (件)	中	10,447	6,204	1,421	965	110	67	45	87	53	8	1	1,486
	東	5,247	3,374	788	476	46	26	29	29	8	3	0	468
	南	8,195	4,886	1,186	813	86	51	71	49	20	13	0	1,020
	西	8,115	5,073	1,124	897	97	48	68	50	29	2	0	727
	安佐南	8,581	5,216	1,140	910	97	59	48	28	16	3	1	1,063
	安佐北	5,739	3,618	844	458	54	44	25	10	11	0	0	675
	安芸	2,813	1,748	414	253	35	33	16	10	9	0	0	295
	佐伯	5,193	3,121	784	489	51	29	39	30	18	1	2	629
	総計	54,330	33,240	7,701	5,261	576	357	341	293	164	30	4	6,363
平成 26 年 比較	平成 26 年 総計	52,733	31,546	7,714	5,403	613	356	343	334	201	27	78	6,118
	増減	1,597	1,694	▲13	▲142	▲37	1	▲2	▲41	▲37	3	▲74	245
搬送人員 (人)	中	7,985	4,805	1,127	733	59	59	45	53	19	3	1	1,081
	東	4,509	2,962	685	414	34	26	28	17	3	0	0	340
	南	6,620	4,006	968	633	53	50	67	39	3	4	0	797
	西	6,884	4,425	987	746	54	47	68	31	6	1	0	519
	安佐南	7,573	4,673	1,028	756	63	57	47	19	1	1	1	927
	安佐北	5,139	3,285	756	399	37	42	24	7	5	0	0	584
	安芸	2,533	1,585	383	223	23	32	16	6	3	0	0	262
	佐伯	4,445	2,688	682	403	26	29	39	13	17	0	2	546
	総計	45,688	28,429	6,616	4,307	349	342	334	185	57	9	4	5,056
平成 26 年 比較	平成 26 年 総計	44,498	27,161	6,673	4,406	412	338	333	230	51	9	52	4,833
	増減	1,190	1,268	▲57	▲99	▲63	4	1	▲45	6	0	▲48	223

2 1日当たり出動件数・搬送人員

区 分	事 故 種 別											
	総 数	急 病	一 般 負 傷	交 通 事 故	自 損 行 為	労 働 災 害	運 動 競 技	加 害	火 災	水 難	自 然 災 害	そ の 他
H27出動件数 (件)	148.8	91.1	21.1	14.4	1.6	1.0	0.9	0.8	0.5	0.1	0.0	17.4
H26出動件数 (件)	144.5	86.4	21.1	14.8	1.7	1.0	0.9	0.9	0.6	0.1	0.2	16.8
H27搬送人員 (人)	125.2	77.9	18.1	11.8	1.0	0.9	0.9	0.5	0.2	0.0	0.0	13.9
H26搬送人員 (人)	121.9	74.4	18.3	12.1	1.1	0.9	0.9	0.6	0.1	0.0	0.1	13.2

3 救急出動件数及び搬送人員の推移（過去10年間）

出動件数及び搬送人員の推移



【参考2】 救助活動

平成27年（2015年）の救助出動件数は830件で、平成26年（2014年）の933件と比べると103件減少している。また、「その他の事故」を除くと、「建物等による事故」が190件と全体の約23%を占めて最も多くなっており、次いで多いのは「火災」197件、「交通事故」148件となっている。

区分	総計	火災		交通事故	水難事故	風水害等自然災害	機械による事故	建物等による事故	ガス及び酸欠事故	爆発事故	その他の事故		
		建物	建物以外										
出動件数（件）	830 (365)	168 (19)	29 -	148 (75)	41 (30)	- -	14 (8)	190 (143)	20 (2)	- -	220 (88)		
屋内	小計	433 (191)	133 (18)	2 -	- -	- -	- -	11 (5)	187 (141)	8 1	- -	92 (26)	
	住居	351 (163)	96 (16)	- -	- -	- -	- -	1 (1)	172 (128)	6 1	- -	76 (17)	
	その他	82 (28)	37 (2)	2 -	- -	- -	- -	10 (4)	15 (13)	2 -	- -	16 (9)	
屋外	小計	347 (172)	14 1	20 -	148 (75)	41 (30)	- -	3 (3)	3 (2)	11 (1)	- -	107 (60)	
	道路	高速道	17 (7)	- -	1 -	16 (7)	- -	- -	- -	- -	- -	- -	
		その他	127 (58)	2 1	2 -	104 (54)	- -	- -	- -	7 -	- -	12 (3)	
	水面	内水面	44 (32)	- -	- -	7 (5)	29 (22)	- -	- -	- -	- -	- -	8 (5)
		外水面	11 (8)	- -	- -	- -	10 (7)	- -	- -	- -	- -	- -	1 (1)
	山岳	16 (11)	- -	2 -	- -	- -	- -	- -	- -	- -	- -	14 (11)	
	その他	132 (56)	12 -	15 -	21 (9)	2 (1)	- -	3 (3)	3 (2)	4 (1)	- -	72 (40)	
	地下	- -	- -	- -	- -	- -	- -	- -	- -	- -	- -	- -	
その他	50 (2)	21 -	7 -	- -	- -	- -	- -	- -	1 -	- -	21 (2)		
救助人員（人）		333	12	-	75	25	-	8	130	2	-	81	
平成26年比較	平成27年出動件数（件）	830 (365)	168 (19)	29 -	148 (75)	41 (30)	- -	14 (8)	190 (143)	20 (2)	- -	220 (88)	
	平成26年出動件数（件）	933 (417)	169 (16)	22 (1)	159 (85)	31 (25)	72 (53)	11 (5)	206 (157)	29 (2)	- -	234 (73)	
	増減	▲103 (▲52)	▲1 (3)	7 ▲1	▲11 (▲10)	10 (5)	▲72 (▲53)	3 (3)	▲16 (▲14)	▲9 -	- -	▲14 (15)	

備考：下段（ ）内の数値は活動件数を示し、内数である。

平成27年（2015年）災害のまとめ

災 害 別	被 害 区 分	単 位	数 値	
火 災	発 生 件 数	件	289	
	焼損面積	建 物	m ²	5,138
		林 野	a	7
	損 害 額	千円	439,205	
	死 傷 者	死 者	人	19
		負 傷 者	人	62
地 震	死 傷 者	死 者	人	—
		負 傷 者	人	—
	家 屋	全 壊	棟	—
		半 壊	棟	—
		一 部 破 損	棟	—
風 水 害	死 傷 者	死者・行方不明者	人	—
		負 傷 者	人	6
	家 屋	全 壊	棟	—
		半 壊	棟	—
		一 部 破 損	棟	—
		床 上 浸 水	棟	—
		床 下 浸 水	棟	—
山 ・ が け 崩 れ	箇所	3		
ガ ス 災 害	発 生 件 数	件	7	
	死 傷 者（自損行為を除く。）	死 者	人	—
		負 傷 者	人	1
	火 災 件 数	件	2	
	爆 発	件	—	
漏 え い 事 故	件	5		
危険物災害 (危険物施設(許可)に限る。)	発 生 件 数	件	7	
	火 災 件 数	件	—	
	流 出 等 の 事 故	件	7	